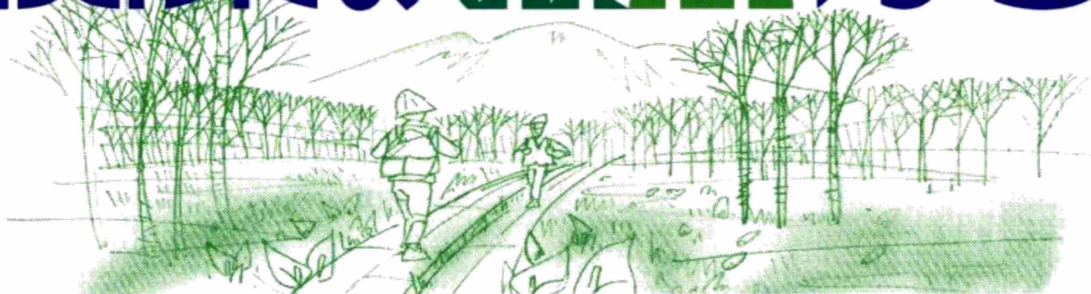


令和4年3月1日

第213号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL:027-210-1158
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



森林・林業技術等交流発表会を開催しました 技術普及課・・・2

小笠原の海岸から～きれいな海岸のために～ 小笠原総合事務所国有林課・・・7

防災林造成事業について 治山課・・・8

森づくり最前線 磐城森林管理署川内森林事務所 森林官 鈴木暁亜・・・10

【写真】荒船山（写真提供：群馬県下仁田町役場）

森林・林業技術等交流発表会を開催しました

技術普及課

関東森林管理局では、民有林や国有林で取り組まれた技術開発の成果、調査・研究に基づく知見、様々な活動事例等を多くの関係者で共有し、広く普及するため、都県、市町村、林業事業体、学校等の参加を得て「森林・林業技術等交流発表会」を毎年度、開催しています。

2月16日・17日に66回目となる「令和3年度森林・林業技術等交流発表会」をweb形式にて開催しました。

【発表課題】

今年度は、スライド発表19課題、ポスター発表27課題の合計46課題の発表がありました。国有林職員のほか、国や地方自治体の職員、研究機関の職員、大学関係者、NPO法人、民間事業体、林業を学ぶ学生など、共同発表者も含め、合計70名の発表者が登壇しました。

スライド発表は動画を公開するとともに、発表用スライド原稿をPDFにて閲覧できるようにしました。ポスター発表では、PDF表示のポスターとともに、発表者の解説音声の流れ、閲覧する方にも分かりやすくなるよう工夫しました。

また、今年度もWeb形式の利点を活かし、より多くの方に閲覧していただけるよう、関東森林管理局のホームページにて、発表会当日から1週間程度の期間、閲覧できるようにしました。

**令和3年度 関東森林管理局
森林・林業技術等交流発表会**

令和4年2月16日～17日
交流発表会特設掲示板にて開催！

https://portal.maffnet.go.jp/ind/morino-wa/SitePages/20220216_event.aspx

掲示板入り方：
①関東局掲示板の右上にある
リンク「森林の環」をクリック
②一番上の「特設掲示板はこちら」をクリック

スライド・ポスター発表の閲覧、応援メッセージ、
質問、ポスター、スライド投票がまとめてできます！

特別講演

林地の災害リスクの基礎知識—林業と国土保全の両立を目指して—
(国研) 森林総合研究所 関西支所 森林環境研究グループ 多田 泰之 氏
特設掲示板にて動画を閲覧できます！

お問い合わせ先
〒371-8508 群馬県前橋市岩神町4-16-25
関東森林管理局 森林整備部 技術普及課 TEL:027-210-1175

国土の森林 国営林

令和3年度 関東森林管理局 森林・林業技術等交流発表会の開催について

Tweet 印刷

令和4年1月25日
関東森林管理局

森林・林業の活性化と課題解決に向けて、地方自治体、大学生、国有林職員等が新たな技術開発の成果や取組状況について、情報を共有・発信し、交流を深める森林・林業技術等交流発表会を開催します。

【概要】

森林・林業においては、収益の向上、低コスト・省力化、ニホンジカ等による獣害への対策、集中豪雨や台風による森林被害や山地災害等への対応、ICT等新たな技術の活用、人材の育成などの諸課題に対応していく必要があります。

森林・林業技術等交流発表会では、当局管内の国立研究開発法人、都県、市町村、林業事業者等の国有林関係者及び林業教育機関等に幅広く参加を呼びかけ、国有林、民有林の各々の現場において進められている課題解決に向けた様々な工夫や技術開発等、地域林業の発展に寄与する取組について発表が行われます。

どなたでも参加でき、質問や応援メッセージもHPから受け付けていますので、奮ってご参加ください。

記

- 開催日 令和4年2月16日（水）～2月17日（木）
※ポスター発表は2月7日よりPDFを事前公開予定。
YouTubeリンク、PDFの掲載期間は2月16日（水）～28日（月）
- 場 所 Web開催
(関東局HP：https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/sidou/kanto_presentation.html)

- 内 容 別紙プログラム参照
■スライド発表(PDF: 139KB) 19課題
■ポスター発表(PDF: 134KB) 27課題



HP用

■特別講演
「林地の災害リスクの基礎知識
ー林業と国土保全の両立を目指してー」
(国研) 森林総合研究所 関西支所
森林環境研究グループ 多田 泰之 氏
※プログラムは都合により変更となる場合があります。
※講評及び表彰式は行いません。

スライド発表（2月末日まで公開）

<p>希少猛禽類の生態系に配慮した林道工事に関する近年の取組 福島県金津森林事務所 中沢 竜馬</p>	<p>八溝山周辺におけるニホンジカ低密度地域の生態状況と誘引捕獲 栃木県森林管理署 井上 尚吾</p>	<p>初期保育作業の省力化におけるドローンを用いた薬剤散布の活用 茨城県森林管理署 村上 岡、栗崎 聡一郎</p>	<p>下刈り時期および立地を考慮した下刈り省力化技術の開発試験 森林技術・支援センター 中山 優子、仲田 昭一</p>	<p>より有効な「美しの森」の利用を目指して（数種の機器機能と歩道の利用に係るアンケート調査の実施） 日光森林管理署 石川いずみ、三井 幸、瀧野とつき 環境省日光国立公園管理事務所 江頭 典久</p>
<p>シカは2週間で忘れるという説は本当か（観鳥実行による有害鳥獣捕獲の取組から） 利根沼田森林管理署 新井 健司、中村 聖子、須藤 洋一</p>	<p>センサーカメラによる哺乳類の長期モニタリング調査 香川県森林心あい推進センター 伊藤 彰伸 (公財) 日本自然保護協会 生物多様性保全部 中野 暁</p>	<p>レーザースカンによる森林調査 技術普及課 小松 玄季</p>	<p>センダンの苗木育成調査 群馬県立農林大学校 東 知樹</p>	<p>立木支柱を利用したシカ侵入防止の比較検討 埼玉県寄居森林事務所 谷口 美洋子</p>
<p>森林環境教育の教材の作成について 高尾森林心あい推進センター 福田 伸男、地下 祐子</p>	<p>Yamapriと歩く国有林 中部森林管理署 高橋 沙織、近江 隆昭、菅馬 聡</p>	<p>地すべり防止事業における新工法の活用について（二重式集水管・BSC工法） 上野森林管理署 安塚治山事業所 長 龍一郎</p>	<p>合板用材としての早生樹（テダマツ・スッシュマツ等）の可能性について 静岡森林管理署 幸田 和伸 中日本合板工業組合 高野 清人</p>	<p>シカ害防護の維持管理について～防護ポイント検定の分析～ (国研) 森林研究・整備機構森林整備センター 静岡水辺林整備事務所 菊地 朋子、大川 新史</p>
<p>動物園の展覧館によるシカ保護個体の有効活用について</p>	<p>林業成長産業化に向けた早生樹(テダマツ等)の可能性</p>	<p>歩行による獣害対策用防護網の点検について</p>	<p>竹林と竹材の活用</p>	

◎スライド発表 19課題

部門名	課題名	発表者所属・氏名	受賞内訳
森林技術部門	初期保育作業の省力化におけるドローンを用いた薬剤散布の活用	茨城森林管理署 村上 周	優秀賞
"	下刈り時期および立地を考慮した下刈り省力化技術の開発試験	森林技術・支援センター 中山 優子	
"	シカは2週間ですれど忘れるという説は本当か (職員実行による有言鳥獣捕獲の取組から)	利根沼田森林管理署 新井 健司	優秀賞
"	レーザースキャンによる森林調査	関東森林管理局 技術普及課 小松 玄季	優秀賞
"	センダンの苗木育成調査	群馬県立農林大学校 森林コース 東 知樹	優秀賞
"	立木支柱を利用したシカ侵入防止柵の比較検討	埼玉県香居林業事務所 森林環境担当 谷口 美洋子	
"	Yamapriと歩く国有林	中越森林管理署 宮嶋 沙織	最優秀賞
"	合板用材としての早生樹(テーターマツ・スラッシュマツ等)の可能性について	静岡森林管理署 宝田 和将	優秀賞
"	シカ害防護柵の維持管理について ～防護柵点検簿の分析～	(国研)森林研究・整備機構森林整備センター 静岡水源林整備事務所 造林係 菊地 朋子	
"	林業成長産業化に向けた早生樹(テーターマツ等)の可能性	天竜森林管理署 松田 泰至	優秀賞
"	歩行による獣害対策用防護柵の点検について	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 高野 瑞音	特別賞 (奨励賞)
森林保全部門	希少猛禽類の生態系に配慮した林道工事に関する近年の取組	福島県会津農林事務所 森林林業部 森林土木課 半沢 竜馬	特別賞 (林業振興賞)
"	八溝山周辺におけるニホンジカ低密度地域の生息状況と誘引捕獲	桐倉森林管理署 井上 晴香	
"	地すべり防止事業における新工法の活用について (二重式薬水管・BSC工法)	上越森林管理署 安塚治山事業所 長 陽一郎	
"	動物園の屠体給餌によるシカ捕獲個体の有効活用について	天竜森林管理署 上木屋 健	優秀賞
森林ふれあい・ 民国連携部門	竹林と竹材の利活用	NPO 法人日本ポニーイースカウト浜松第15 団 VS 隊長 寺田 智成	優秀賞
"	より有効な「美しい森」の利用を目指して (景観の情報発信と歩道の利用に係るアンケート調査の実施)	日光森林管理署 石川 いずみ	
"	センサーカメラによる哺乳類の長期モニタリング調査	赤谷森林ふれあい推進センター 伊藤 彰伸	特別賞 (特別賞)
"	森林環境教育の教材の作成について	高尾森林ふれあい推進センター 磯田 伸男	

◎ポスター発表 27課題

部門名	課題名	発表者所属・氏名	受賞内訳
森林技術部門	携行型3次元レーザースキャナの治山施設設計への利用検討	福島森林管理署 山尾 真生	受賞内訳

	二ホンジカの低密度管理に向けて(第3報)	赤谷森林ふれあい推進センター 中園 昭博	公益財団法人日本自然保護協会 萩原 正朗	
	樹下植栽したヒノキアスナロの初期成長 ~技術開発課題 中間報告~	下越森林管理署 松原 真一		
	会津森林管理署のストックポイント整備の試み	会津森林管理署 佐藤 匡	会津森林管理署 板垣 邦之	
	民国連携におけるドローンの活用事例について	埼玉森林管理事務所 茂垣 圭三		
	「伐採・造林の一貫作業(大型機械地植え)」をテーマにしたぐんまフオレストー連絡会の技術交流会の開催	群馬森林管理署 松井 琢郎		
	新潟県糸魚川市の小滝川上流崩壊地における新工法を用いた治山対策について	上越森林管理署 吉川 徹		
	ドローンによる林分材積推定	上越森林管理署 内海 洋太		
	冬下刈箇所における森林施業への有効性	福島森林管理署 白河支署 内山 弘敬		
	高圧洗浄機を活用した温水除草システムの検証	日光森林管理署 町田 次郎	日光森林管理署 平野 辰典	クリエイティブ賞
森林保全部門	下越地区におけるニホンジカ等の生息・目撃状況調査	下越森林管理署 渡邊 広幸		
	群馬県におけるクビアカヤマキミキリの被害状況	群馬県農業試験場 企画・自然環境係 山田 勝也		
	高尾山におけるナラ枯れ対策について ~職員実行によるウッドキングDASHの施工~	東京神奈川森林管理署 柳下 英樹		
	遠隔地におけるWEB環境を活用した監督業務の実行について	東京神奈川森林管理署 小椋山 諒		クリエイティブ賞
	継続的な捕獲事業によりシカ密度が低下した地域における捕獲し造林の試み	静岡森林管理署 入江 明寛	静岡森林管理署 藤崎 知恵子	デザイン賞
	「大量集積型おとり丸太」によるカシノガキクイムシの誘引状況報告	磐城森林管理署 伊部 智善	磐城森林管理署 永野 みちる 山形大学農学部 齋藤 正一	特別賞 (局長賞)
	大規模前線地ホーキ苑の治山工事経過について	大井川治山センター 黒木 健吾		
	旧避難指示区域等内国森林における森林整備の実施に必要な放射性物質関係調査事業の実施について	森林放射性物質汚染対策センター 高鷲 淳一		
	絶滅目前！オガサワラカラヒワを救えるか？	小笠原諸島森林生態系保全センター 諸星 雄二		
	濁水問題の原因究明と生態影響評価を目的とした富士川-駿河湾複合生態系の緊急学術調査	山梨大学 岩田 智也		
	ICT技術を活用した施工管理の検討	上越森林管理署 堀内 稔弘		
	流域の人々の暮らしを守る田代山の治山対策	会津森林管理署南会津支署 根本 翼	会津森林管理署南会津支署 中島 俊和	
森林ふれあい 民国連携部門	産官民学で取り組む山岳森林教育：山岳科学フィールド実習A	筑波大学山岳科学センター 菅平高原実験所 津田 吉晃		
	成熟した人工林資源を最大限に活用し、林業と木材産業の成長産業化を図る	塩那森林管理署 山浦 洋治	矢板市農林課 市川 貴大	
	環境問題を考える芽を育てる ~森林教室をとおして子どもたちの意識が変わる~	東京事務所 関 清孝		
	筑波大学井川演習林における森林水文・砂防に関する教育・研究の取り組み	筑波大学山岳科学センター井川演習林 山川 陽祐		
	国民参加の森林づくり活動の取組紹介 ~モデルプロジェクトの森協定の事例~	千葉森林管理事務所 江口 恵	関東森林管理局 技術普及課 森川 真紀	最優秀賞

【審査結果・講評】

審査は、長池卓男（山梨県森林総合研究所主幹研究員）審査委員長をはじめ、外部有識者など5名による審査委員会が行いました。

その結果、スライド発表では、最優秀賞1課題、優秀賞8課題、特別賞（林業振興賞、特別賞、奨励賞）3課題が受賞しました。また、ポスター発表では、職員からの表彰推薦課題の投票が行われ、最優秀賞1課題、クリエイティブ賞2課題（同点順位による同時受賞）、デザイン賞1課題、特別賞（局長賞）1課題が受賞しました。

審査委員会からは、「様々な視点からの技術開発が、現場の悩みや課題の解消につながっている。今後は、同じ悩みを持つ人達と発表内容を共有してほしい。」「web形式も2年目で、プレゼンが洗練されてきた。新たなスタイルとして、今後に期待する。」「技術開発に取り組む視野が広がってきた。」「調査内容や、結論に至るまとめ方が素晴らしい発表が多かった。」などの講評をいただきました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、昨年度と同様にweb形式による開催となりました。Web形式による配信としたため、遠隔地からの参加が容易になったことで、ポスター発表のコアタイムでは複数の会場に参加される方もおり、web形式での利点が活かされました。また、メールによる質問や「応援メッセージ」をホームページ上で募集し、発表者と視聴者の交流が図られるようにしました。

来年度も、発表者と参加者の交流が深まり、発表会参加への意欲や関心を高め合う場を提供できるよう努めてまいります。

関東森林管理局では、今後も新たな技術や研究成果の普及に努めてまいります。

今月の表紙

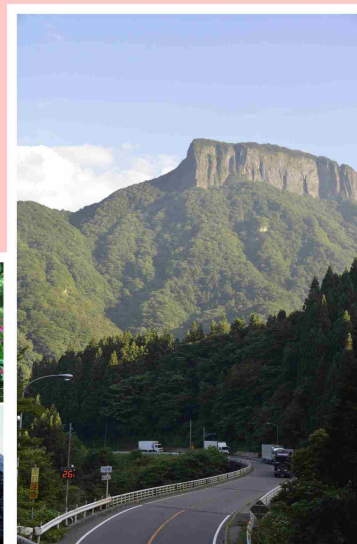
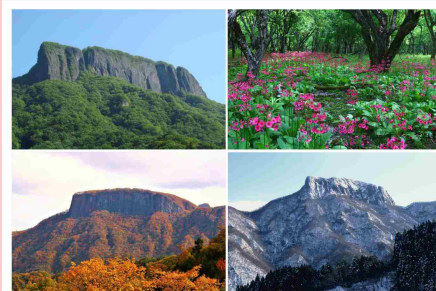
荒船山（群馬森林管理署）

写真提供：群馬県下仁田町役場

妙義荒船佐久国定公園の名峰で、下仁田町、南牧村、長野県佐久市にまたがっており、荒海に浮かぶ航空母艦のようなふるまいとなっている。

頂上北端の、船の艦にあたる所が艦岩で、200mにもおよぶ断崖は、見る人を圧倒する。絶壁上の見晴台からは、神津牧場や佐久高原、浅間山、さらには遠く北アルプスまで一望できる。一年を通して登山者が多く、レベルに応じた登山ルートを選ぶことができる。

頂上の一部を除いて国有林である。



小笠原の島から ～きれいな海岸のために～

小笠原総合事務所国有林課



小笠原諸島では喫緊の課題として、海岸漂着物等（いわゆる「海ゴミ」）の撤去があります。近年問題となっているマイクロプラスチックの原因となるプラスチック製の海ゴミですが、小笠原の海岸でも放置しているとどんどん溜まってしまいます。小笠原の国有林には海洋島という特性上、長大な海岸線が存在し、小笠原の面積の約6割を占める国有林にも同様に存在します。

小笠原では観光が主な産業であることから、地元から海ゴミの撤去要望が強く、早急な対応を求められています。このため、小笠原諸島森林生態系保全センターや小笠原総合事務所の職員自らが撤去したり、東京都と協力して撤去したりしています。

船での移動・運搬があるので傭船が必要ですが、今年は海況が悪く、9月の作業予定が11月になったり、11月には途中で大雨となって、凍えながら作業したときもありました。かなり3Kの作業ですが、撤去後にはきれいな海岸が見え、地元の方からお礼をいただくこともあり、達成感があります。困難な業務遂行による職員間の連帯感や信頼関係が生まれ、大汗をかいた夜の打ち上げでは、大変盛り上がりました。作業地の移動にはカヤックやSUPを用いており、その移動中にイルカの群れに遭遇するなど、南国気分が体験できます。

小笠原諸島をぜひご訪問ください。



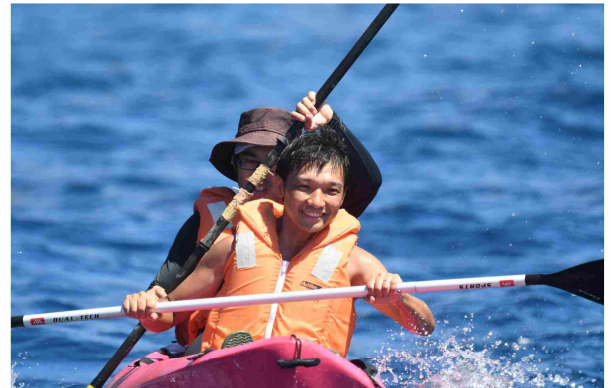
▲ 「海ゴミ」撤去前の海岸



▲ 「海ゴミ」撤去後の海岸



▲ イルカに遭遇



▲ カヤックでの移動

治山課

防災林造成事業について

治山事業で主に施工されている工種は、治山ダムといった「溪間工」や、山の斜面の崩壊を防止する土留工や緑化工のような「山腹工」です。このほか治山施設の設置と併せて森林の造成を行うことにより、災害を防止・軽減する「防災林造成」という事業も実施しています。

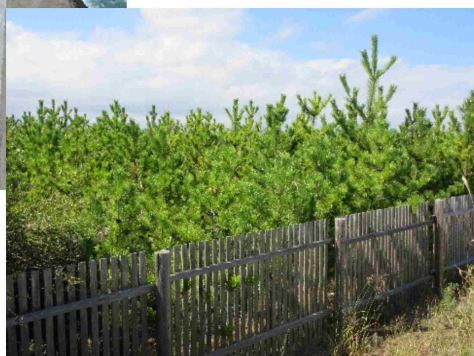
関東森林管理局においては、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震により発生した津波で被災した、福島県相馬市の松川浦地区の防災林の復旧を行っています。このことは本誌でこれまでに何度か特集していますが、今回は他の箇所での防災林造成事業を紹介します。



▲ 松川浦地区の被災状況



▲ 松川浦地区の復旧状況 (令和2年6月)



▲ 松川浦地区のクロマツの育成状況 (植栽6年後)

(潮害を防ぐ防災林)

新潟県村上市塩谷地区の防災林は、「お幕場」と呼ばれる松林で、「日本の白砂青松100選」にも選定されている景勝地です。この防災林は、高浪の影響で海岸侵食が進み、海岸線の後退だけでなく、松林の流出も深刻化していました。これ以上の侵食を防ぎ、防災林としての機能を発揮できるようにするため、自然石を利用した護岸工や木製の防風柵工を施工しました。



▲ 波浪による海岸侵食



▲ 防風柵工の破損状況



▲ 護岸工と防風柵工の完成

(風害を防ぐ防災林)

伊豆諸島の一つである三宅島は、活発な火山活動を繰り返している島です。平成12年の三宅島噴火の際には、海岸部の防災林として機能していた国有林が有害な火山ガスのため全て枯れる被害が発生しました。防災林を回復させるため、木製防風柵の設置、クロマツの植栽を行っています。強風等の過酷な条件下ですがクロマツは順調に生育し、人家等への潮害や強風による被害を軽減しています。



▲ 木製防風柵とクロマツ



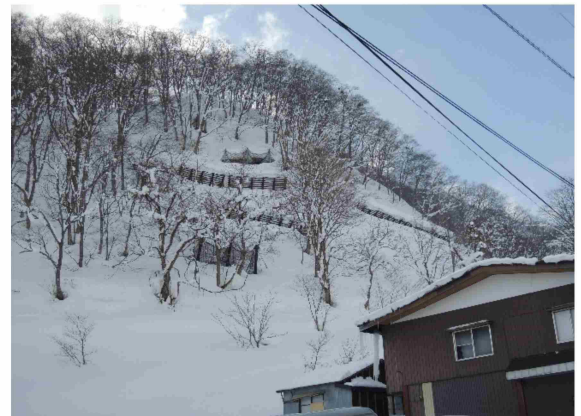
▲ 三宅島の防災林の全景



▲ クロマツの
成育状況
(植栽後約10年)

(雪崩を防ぐ防災林)

新潟県妙高市は、日本でも有数の豪雪地帯で、山間部で5mを超える積雪を記録するほどです。斜面に多量に積もった雪は、春の融雪時などに雪崩となる危険性が高くあります。また、樹木も育ちにくいことから、雪崩予防柵を施工し、雪崩災害の防止と軽減を図っています。



▲ 雪崩予防柵

治山事業は、山地災害から国民の生命・財産を守り、生活環境の保全形成等を図る重要な国土保全施策の一つです。防災林の造成により森林の本来持っている機能を高め、安心・安全な生活の確保に努めてまいります。

動物の名前が付いている きのこと

わからないきのこは採らない、食べない、人にあげないを徹底してきのこ中毒に注意してください

クマシメジ (キシメジ科 キシメジ属) (食用)

10月中旬から11月上旬にかけて、モミ属の樹下に散生から群生する。カサは5cmから8cmで表面は黒色で全体が繊維質の綿毛に覆われる。ヒダは、初め白色後に灰白色になり柄に湧生する。柄は、5cmから8cmで初め白色で後に少し灰色が混じる。発生は稀で珍菌とされている。



森づくり最前線

磐城森林管理署 川内森林事務所 森林官 鈴木暁亜

川内村は、福島県浜通り地域の中西部に位置し、北から南へは阿武隈山地の山々が連なっています。村の面積のおよそ9割が森林で、村の中央を木戸川とその支流が流れ、イワナやヤマメが生息している自然が豊かなところです。

川内森林事務所は、村内の森林面積の3割にあたる約5,600haの国有林を管理しています。国有林はアカマツ主体で4割を占めており、スギ・ヒノキは2割弱となっています。

村の西側、田村市との境にある大滝根山（標高1,192m）は阿武隈山地の最高峰で田村市側は国有林です。その山頂には、自衛隊の中でも最も標高の高い場所に所在する航空自衛隊大滝根山分屯基地（レーザーサイト）があります。また、国有林内にある平伏沼は、モリアオガエルの繁殖地として国の史跡名勝天然記念物に指定されています。

平成23年3月の東北地方太平洋沖地震に伴う福島第一原子力発電所の事故により、管内の国有林も影響を受けました。現在は、放射線量が一部を除き比較的低くなっており、施業可能な箇所から森林整備事業を実施しているところです。

そのような中、令和2年12月に、川内村の森林・林業の再生に向け、川内村と福島県相双農林事務所、磐城森林管理署の三者で、地域林業の活性化、団地化による合理的な路網の整備と効率的な森林施業の実施、地域材の安定供給に取り組むことを目的として、「川内地域森林整備推進協定」を締結しました。現在、同協定に基づく森林共同施業団地を1箇所設定し、民国連携した取組を進めています。

一方、令和元年10月の令和元年東日本台風（台風19号）により、川内村でも河川の氾濫や土砂崩れ、家屋の浸水等の被害が多数発生し、現在でも復旧のための工事等が行われています。国有林においても、山腹崩壊等による土砂流出

等の被害が発生したため、治山事業等により復旧対策を行っています。

川内村の復旧・復興のための課題等は多々ありますが、地元の森林官として、今後も関係機関や地域住民からの情報や意見を聴き、森林整備を積極的に実施し、より良い森林づくりができるよう努めていきたいと思っています。

